

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-------------|---|------|---|-------|---|------------------|-----|---------|------|------------|---|---|----|
| 学校番号 | 54 | 学校名 | 県立竜ヶ崎第一高等学校 | | | | | | 課程 | 定時制 | | 学校長名 | 太田垣淳一 | | | |
| 教頭名 | 高野光章 | | | | | | | | | | 事務(室)長名 | 野口範正 | | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 5 | 養護教諭 | 1 | 常勤講師 | 1 | 非常勤講師 | 1 | 実習教諭, 実習講師, 実習助手 | 0 | 事務職員 | 1 | 技術職員等 | 1 | 計 | 13 |
| 生徒数 | 小学科 | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 合計 | | 合計 クラス数 | | | |
| | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | | |
| | 普通科 | | 4 | 6 | 14 | 2 | 13 | 2 | 0 | 1 | 31 | 11 | 4 | | | |

2 目指す学校像

多様な就学動機をもつ生徒たちが、学ぶことの意義や喜びを感受・体験できる教育環境の整備に努め、充実した生涯学習の基礎を育成する。

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|-----------|--|--|
| 学習指導 | 家庭での学習を全くしない生徒が大部分を占め、学業へ取り組む姿勢に真摯さ、ひたむきさが乏しい。 | 「学び直し」も含め、学業に対する適切な動機付けと、基礎学力の確かな定着を図る。 |
| 進路指導 | 生徒の約7割が就職希望であるが、意欲の面で個人差がある。進学希望者は多くの場合、学資の面で問題を持っているため、具体的な計画が立てにくい状況である。 | 生徒の実態に合わせた個別指導を行い、就職内定率の上昇及び上級学校への進学者数の増加に努める。 |
| 生徒指導 | 昨年度の1日の平均欠席者数が約4人であり、欠席者を減らす工夫、改善が必要である。 | 多くの生徒がアルバイトをしながら学ぶという状況において、生活全般における基本的な生活習慣の育成を図る。 |
| 特別活動 | 各種の学校行事や生徒会活動への参加意欲が乏しく消極的である。自身のキャリア形成について、将来の展望を見通せていない部分がある。 | 日々の授業やアルバイトの奨励を通じて、社会性の向上を図り、連帯・協調の精神を育成する。キャリア・パスポートを活用し将来像を考え豊かなキャリア形成を図る。 |
| 保健室指導 | 心身の健康に課題を持つ生徒が多く見られる。1日平均7～8名程度の保健室の利用がみられる。 | 個々の健康課題に適したサポート体制を構築し、心身の健康の保持増進を図る。 |
| 働き方改革について | 休暇取得状況や毎日の勤務時間については、おおむね良好に保たれている。 | 職場環境を整えるとともに、きんむ君を活用し、より良好な勤務時間の状況を保持継続する。 |

別紙様式1 (高)

4 中期的目標

| |
|--|
| <p>(1) 授業計画や授業方法の工夫改善により生徒たちの学習意欲をより高め、学習活動を充実させることで、充実した学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(2) 全教職員が生徒一人一人の状況や動向への把握・理解に努め、働きながら学ぶ生徒の「心の居場所・拠り所」となるよう学校環境の整備を図る。</p> <p>(3) 働き方改革を念頭に置き、教育活動の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進めてライフ・ワーク・バランスを一層改善し、公私ともに実りある豊かな生活を目指す。</p> |
|--|

5 本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 |
|----------------------------------|--|
| 学習指導の充実に努め、確かな学力の定着を図る。 | ①授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ②授業内容や指導法の工夫に努めながら指導スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。 |
| 進路指導を充実させ、希望する進路の実現に努める。 | ①個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路指導に努める。特に就職指導・キャリア教育の充実に努める。 ②有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し、自ら進路決定できるよう支援する。 ③キャリア・パスポートを活用し、ホームルームや総合的な探求(学習)の時間で目標設定や振り返りを行う。 ④教員間の情報の共有を促進し、組織力・協働力で効果的な進路指導を進める。 |
| 基本的な生活習慣の確立に努め、規範意識を培う。 | ①社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前に行える生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により落ち着いた学校生活づくりに努める。 ②教員間の協働体制の下、教員側の聴く態度を重視し教師と生徒の信頼関係の保持に努める。 ③心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努め、「いじめ」は絶対に許さないという意識の醸成に努める。 |
| 体育・スポーツ活動を奨励し、心身の陶冶と体力向上に努める。 | ①体育の授業や学校行事に積極的に参加させ、自ら考え行動する中から運動する楽しさや、仲間との交流の喜びを体感させ、活動意欲の向上を図る。 ②定時制通信制大会への参加を通して、自己の役割を自覚させ、助け合いや協力によって仲間意識を育むとともに、生徒間の相互理解や相互尊重の心、道徳心を養う。 ③校外活動を通して社会環境への関心を高め、意欲的に社会貢献のできる心豊かな人材の育成に努める。 |
| 働き方改革を推進し、教職員が健康で働きやすい環境づくりを目指す。 | ①夏季休暇の100%取得、閉庁日の完全実施、年休(時間単位を含む)の積極的取得(15日以上)等、休暇の取得等がしやすい環境づくりを推進する。 ②きんむ君の活用等で教職員の超過勤務の状況を把握し、状況の改善やその他の課題解決に向けて取り組む。 |